

白銀南小学校の環境教育

地域の宝 ホタルの里

白銀南小学校の裏手を少し歩いていくと勘助山があります。登っていくと湧き水が流れている場所にたどり着きます。この湧き水が勘助川として白銀南小学校の近くまで流れてきて、ホタルの生息地「ホタルの里」になっています。地域のお年寄りの話によると、昔は白銀南小学校だけでなく白銀小学校付近までホタルの飛ぶ姿を見ることができたそうです。

ホタルの生息には環境が大きく影響していて、きれいな水無くしては生きられません。そこで地域をあげて、小学生からお年寄りまで一緒になって「ホタルの里づくり」に取り組んでいます。では、ホタルの一生とともに、取り組みについて紹介したいと思います。

ホタルの一生

- ① 交尾した成虫は川のコケに産卵します。
- ② 1か月でふ化し、幼虫はそのまま川に落ちて長い水中生活に入ります。(8月～5月) 10か月間。
- ③ 幼虫は水の中のカワニナなどを食べて、5～6回脱皮します。
- ④ 成長した幼虫は土の中でさなぎになり、羽化します。
- ⑤ 成虫は6月下旬頃、地表に出て飛び立ちます。



生存期間は成虫になってから1～2週間位で、交尾・産卵をして一生を終えます。

幼虫にとって長い水中生活を支えるためには、きれいな水が必要です。また、えさとなるカワニナもきれいな水無しでは生息できないことから、環境保護が重要になります。

ホタルの里を守るための取り組み

- ・「ホタルの里づくり」環境整備ボランティアの方々による「ホタルの里」及び勘助川周辺の清掃作業が定期的に行われています。
- ・「ホタルの里」において、毎年4月下旬頃、ホタルの幼虫やカワニナの放流会が行われています。前年度、ホタルの学習をした5年生児童が参加し、勘助川の小川に放流しています。 ※写真
- ・「ホタルの里まつり」～ホタル飛翔鑑賞会～は、毎年6月下旬頃、白銀南公民館を会場として行われています。こども縁日なども催され、多くの人を楽しみながらホタルに親しみました。また4年生児童が、自分たちにとっての宝であるホタルをこれからも大切にすること、さらにきれいな環境を力を合わせて守り続けることを「喜びのことば」として誓いました。

白銀南小学校の4年生は総合的な学習の中で、ホタルの生態について公民館長さんから聞いたり自分たちで調べたりしたことを壁新聞にまとめ、全校児童に知らせる活動を行いました。また、地域の方々には、子ども祭りで(劇や紙芝居、クイズなど)ホタルのことを発表しました。



ホタルの幼虫・カワニナの放流会

ホタルの里ではマナーを守りホタル鑑賞を楽しんでいます。

ホタル観賞のマナー

- ホタルを捕らない・持ち帰らない。
- ホタルのいる場所に、懐中電灯やカメラのフラッシュなどを向けない。
- ホタルの住む勘助川をきれいに。ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ホタルの里では、大声で騒がない。

みなさんもホタルの里に来て、ぜひホタルに親しんでください。